

| | |
|-------------|---------------|
| 講義コード | 1116030002 |
| 講義名称 | 経済学B 02<春> |
| 科目英文名 | Economics B |
| 開講責任部署 | 共通教育機構 |
| 代表ナンバリングコード | ECON1000 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 田代 昌孝 |

| | |
|------|----|
| 授業形態 | 講義 |
|------|----|

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト |
|---------------|--|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではマクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。 |
| 学習（到達）目標 | この講義に積極的に参加することを通じて ①マクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。 ②マクロ経済学の基礎理論を使い、一国経済の現状を理解する能力の基礎を得ることができる。 ③国際経済の現実的諸関係について理解する能力を得ることができる。 ④マクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス マクロ経済学とはどのような学問であるのか。 成績評価について。 レジュメやテキストについての説明。 講義を受けるうえでの注意事項。 |
| 第2回 | マクロ経済学の学びについて（イントロダクション） |
| 第3回 | 国民所得の決定①（ケインズ型消費関数） |
| 第4回 | 国民所得の決定②（完全雇用について） |
| 第5回 | 国民所得の決定③（乗数効果について） |
| 第6回 | 投資と経済（IS曲線の導出） |
| 第7回 | 金融の仕組み（金融リテラシー） |
| 第8回 | 金融と経済（LM曲線の導出） |
| 第9回 | 労働市場について（物価の決定） |
| 第10回 | 失業について（失業発生メカニズム） |
| 第11回 | インフレについて（インフレ発生メカニズム） |
| 第12回 | 国際経済（為替レートの決定） |
| 第13回 | 固定相場制（政策の効果を踏まえて） |
| 第14回 | 変動相場制（政策の有効を踏まえて） |

| | |
|------|----------------------|
| 第15回 | グローバル化と経済（キャピタルフライト） |
|------|----------------------|

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | |
| レポート | 70% |
| その他 | 30% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 【成績評価について】 M-Portによる授業内の課題提出が30%、学期末に出されるレポート課題が70%。 レポートは設問を5問出題したうえで、全問正解をSとし、それ以降、1問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。 |
|---------------|--|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|-------------------|-------------|---------|------|-------|----|
| 1. | 中谷巖、下井直毅、 塚田裕昭 | 入門マクロ経済学第6版 | 学生独自購入 | | 日本評論社 | |

| | |
|--------------|--|
| 事前および事後学習の指示 | 講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。特に、第10回から12回までは配布資料を事前に熟練しておいてください。前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |

| | |
|-------------|--|
| 講義コード | 1560030000 |
| 講義名称 | 国際機構論A <春> |
| 科目英文名 | Studies of International Organizations A |
| 開講責任部署 | 法学部 法律学科 |
| 代表ナンバリングコード | POLS2430 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 軽部 恵子 |

| | | |
|------|----|------------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング |
|------|----|------------|

| | |
|---------------|---|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート |
|---------------|---|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | この講義では、大航海時代から国連設立までの歴史を概観します。高校までの世界史と似ている部分もありますが、国際機構の視点で掘り下げるので、かなり異なる部分もあります。西洋を中心とした近現代史の基礎知識は、あらゆる科目の理解に必須です。国際機構論の第2回から第4回は、国際法Aの第2回から第4回と同じ教材を用いますが、国際機構論の視点から考えていくため、同じ講義内容ではありません。講義冒頭に、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際機構論の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。 |
| 学習（到達）目標 | ①国際社会が成立する歴史的背景（大航海時代から20世紀初めまで）を理解する。 ②国際連盟など、国連以前に設立された国際機構について、歴史的背景と任務・権限を理解する。 ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。 ④メディア・リテラシーを身につける。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 国際機構とは何か |
| 第2回 | 国際機構の歴史（1）大航海時代、宗教改革、三十年戦争 |
| 第3回 | 国際機構の歴史（2）フランス革命とナポレオン戦争 |
| 第4回 | 国際機構の歴史（3）ハーグ平和会議と赤十字国際委員会 |
| 第5回 | 第一次世界大戦（1）サラエボ事件 |
| 第6回 | 第一次世界大戦（2）近代兵器の登場 |
| 第7回 | 第一次世界大戦（3）パリ講和会議と国際連盟の設立 |
| 第8回 | 国際連盟（1）国際連盟規約 |
| 第9回 | 国際連盟（2）大国の不参加 |
| 第10回 | 国際連盟（3）制裁の欠如 |
| 第11回 | ファシズムの台頭と第二次世界大戦の勃発 |
| 第12回 | 国連の設立（1）「四つの自由」演説と大西洋憲章 |
| 第13回 | 国連の設立（2）ダンバートン・オークス提案 |
| 第14回 | 国連の設立（3）サンフランシスコ会議と国連憲章の採択 |
| 第15回 | まとめ、期末試験 |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|------|
| 試験 | 100% |
| レポート | 0% |
| その他 | 0% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 計3回の試験のみで成績評価を行います（試験は授業時間中に実施し、事前に日程を発表しない）。出席は成績評価に全く関係ありませんが、出席しない人に単位修得は困難です。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。 |
|---------------|--|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|----------|------------------------|-----------|----------------|-----|----|
| 1. | 成美堂出版編集部 | 新版 一冊でわかるイラストでわかる図解世界史 | 大学オンライン販売 | 978-4415328386 | 成美堂 | |

| | |
|--------------|---|
| 参考文献 | 植木安弘『国際連合:その役割と機能』（日本評論社、2018） 上杉勇司『紛争地の歩き方』（ちくま新書、2023） 鈴木啓之・児玉恵美編著『パレスチナ／イスラエルの〈いま〉を知るための24章』（明石書店、2024） 青野利彦『冷戦史』全2巻（中央公論新社、2023） 笈川博一『物語エルサレムの歴史』（中公新書、2010） 小林義久『国連安保理とウクライナ侵攻』（筑摩新書、2022） 篠原初枝『国際連盟』（中公新書、2010） 最上敏樹『国連とアメリカ』（岩波新書、2005） 田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』（ナツメ社、2021） |
| 事前および事後学習の指示 | 毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | 国際機構、世界史、世界大戦、民族紛争、国際連盟、国連 |

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 講義コード | 1755510000 |
| 講義名称 | 語彙・意味論 <春> |
| 科目英文名 | Japanese Lexicology and Semantics |
| 開講責任部署 | 国際教養学部 英語・国際文化学科 |
| 代表ナンバリングコード | LING3480 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|------|
| 氏名 |
| 島 千尋 |

| | | | |
|------|----|------------|---|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング | 実務経験のある教員による授業① 日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ解説する |
|------|----|------------|---|

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト |
|---------------|--|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 「語彙」とは、ある言語・ある分野・ある作品・ある人などが持っている単語の総体のことです。この授業では、日本語の語彙やその意味に関して、外国人の目から見た特徴や「日本語を教える」という観点から必要になる知識や技術について講義します。 将来、日本語教師として外国人学習者に日本語を教えてみたい人はもちろん、日本語のことをもっと深く知りたい人、今後社会で必ず関わることになる外国人と接する際に必要な知識を今から身につけておきたい人を対象とする授業です。 (講義全体を通して、文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち(42)日本語教育のための形態・語彙体系 (44)日本語教育のための意味体系 について学びます) |
| 学習(到達)目標 | 日本語学習者に日本語を教える際、また周りの外国人と接する際に、日本語の語彙に関して必要となる以下の4つを身につける。 1. 自分自身が日本語の語彙を正確に使用できること 2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴について知ること 3. 日本語の語彙に関する基本的知識を得ること 4. 日本語学習者や身近な外国人に日本語の語彙を効果的に教えられること |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | 1. 正確な日本語語彙運用(1) ～間違いやすい言葉①～ (文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち(11)待遇・敬意表現 を含む)ます) |
| 第2回 | 1. 正確な日本語語彙運用(2) ～間違いやすい言葉②～ |
| 第3回 | 2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(1) ～語彙の多さ・男女差～ |
| 第4回 | 2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(2) ～オノマトペ・助数詞～ |
| 第5回 | 2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(3) ～自動詞他動詞・カタカナ語～ |
| 第6回 | 2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(4) ～様々な言葉における他言語との差～ |
| 第7回 | 3. 日本語の語彙に関する基本的知識(1) ～音声変化～ |
| 第8回 | 3. 日本語の語彙に関する基本的知識(2) ～言葉の意味～ |
| 第9回 | 3. 日本語の語彙に関する基本的知識(3) ～様々な動詞～ |
| 第10回 | 3. 日本語の語彙に関する基本的知識(4) ～語彙の分類①～ |
| 第11回 | 3. 日本語の語彙に関する基本的知識(4) ～語彙の分類②～ |
| 第12回 | 3. 日本語の語彙の教え方(1) ～反義語～ |
| 第13回 | 4. 日本語の語彙の教え方(2) ～類義語・多義語～ |

| | |
|------|---|
| 第14回 | 4. 日本語の語彙の教え方（3） ～様々な教え方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（15）言語学習 を含む） |
| 第15回 | 4. 日本語の語彙の教え方（4） ～語彙指導の実践～ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| 試験 | |
|------|-----|
| レポート | 80% |
| その他 | 20% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料をM-Portに上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。 ・ 周りの人とおしゃべりをする、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員に許可を取ってください。 ・ 交通機関遅延などによる遅刻を除き、授業開始45分後以降は入室できないものとします。連絡がない限り教室には入れませんので十分注意してください。 ・ 「レポート」は学期中に時々課す課題（全3回・40%）と学期末に課す最終課題（40%）です。 ・ 「その他」はほぼ毎回課す小テスト（20%）です。 ・ 授業中に質問への回答のためにスマートフォンを使用してもらった場合があります。 |
|---------------|--|

| | |
|--------------|---|
| 事前および事後学習の指示 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業資料（パワーポイント）をM-Portに上げますので、それを見て復習してください。 ・ 自分自身や身の回りの日本語の言葉の正確さについて普段から強く意識するようにしてください。 ・ 学内の留学生と積極的に関わり、話をして、彼らが日本語について感じていることを直接聞いてみてください。 ・ 外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、語彙の面に注意をしながら見てください。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | 日本語、日本語教育、語彙 |

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 講義コード | 14D4910000 |
| 講義名称 | 中小企業論Ⅰ <春> |
| 科目英文名 | Small and Medium Enterprises Ⅰ |
| 開講責任部署 | 経済学部 経済学科 |
| 代表ナンバリングコード | ECON2560 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 義永 忠一 |

| | | |
|------|----|------------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング |
|------|----|------------|

| | |
|---------------|--|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 ディスカッション(話し合い) |
|---------------|--|

| | |
|----------|--|
| 講義・演習概要 | 金融危機以降、経済環境が激変している。さらに2011年には大震災やその後の津波を起因とする事故など、大きな変化が起こった。2020年には、新型コロナウイルス感染拡大により、「新状態」への模索が続いている。そして2022年ロシアによるウクライナ侵攻、2023年中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつある。日本経済の主要な担い手である中小企業は、大きな変化を迫られている。「新状態」への模索と共に大きく揺れ動いている地域経済の下、特に中小企業について本講義では講義していく。 |
| 学習(到達)目標 | 地域に根を張り、地域との関係をさまざまに強く持つことの多い中小企業が直面している大きな変化が、どのようなものを理解・把握することを学習目標とする。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 混沌を生き抜く中小企業ー講義概要と評価の方法ー |
| 第2回 | 日本経済と中小企業～明治期から1970年代まで |
| 第3回 | 日本経済と中小企業～1970年代から2020年代まで |
| 第4回 | 大企業と中小企業 |
| 第5回 | 地域経済と中小企業 |
| 第6回 | 海外の中小企業 |
| 第7回 | 下請システムとものづくり中小企業 |
| 第8回 | 国際化と中小企業 |
| 第9回 | 事業承継と中小企業 |
| 第10回 | 集積・ネットワークを活かす中小企業 |
| 第11回 | 地域と共に生きる中小企業 |
| 第12回 | 中小企業金融 |
| 第13回 | 国による中小企業政策 |
| 第14回 | 自治体による中小企業政策 |
| 第15回 | まとめと選択式試験 |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | 48% |
| レポート | 0% |
| その他 | 52% |

| | |
|---------------|---|
| 成績評価の方法（コメント） | <p>講義資料は、WebClassを通じて最終課題提示（第15回）の前日まで提示します。</p> <p>その他 【52%】 WebClassテストによる課題 WebClassテストによる課題は、第2回～第13回まで講義後に実施する授業内容に関する「選択式の課題」です。 第2回～第14回までの合計13回（合格<60点以上>すれば4ポイント）$13 \times 4 = 52$</p> <p>試験 【48%】 第15回にWebClassテストによる課題 第2回～第14回までの内容から「選択式の課題」を課します。 第1回講義内で詳細をお伝えします。</p> |
|---------------|---|

テキスト

| | 著者 | タイトル | 教科書購入区分 | ISBN | 出版社 | 備考 |
|----|--------------------------------------|-------------------------------|-----------|-------------------|-----|----|
| 1. | 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関 智宏・田中幹大・林 幸治 著 | 中小企業・ベンチャー企業論 第3版 混沌を生き抜く中小企業 | 大学オンライン販売 | 978-4-641-16656-1 | 有斐閣 | |

| | |
|--------------|--|
| 事前および事後学習の指示 | 教科書にあらかじめ目を通し、講義を受けて質問が出来るようにすること。 |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |
| キーワード | 中小企業 歴史 大企業 地域経済 国際化 下請システム サプライヤシステム 事業承継 産業集積 ネットワーク 中小企業金融 中小企業政策 |

| | |
|-------------|---|
| 講義コード | 17E5170000 |
| 講義名称 | 現代英語圏文化の諸問題-フィクションと社会B <春> |
| 科目英文名 | Topics in English-Fiction and Society B |
| 開講責任部署 | 国際教養学部 英語・国際文化学科 |
| 代表ナンバリングコード | CULT3400 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|-------|
| 氏名 |
| 谷山 智彦 |

| | | |
|------|----|------------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング |
|------|----|------------|

| | | |
|---------------|---|------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート | 小レポート/小テスト |
|---------------|---|------------|

| | |
|----------|---|
| 講義・演習概要 | 「小説」は想像の産物であり、創作物である。フィクションであるが、その背景には多くの場合、創作された時代の社会の「空気」や「社会問題」がある。本講義では、「小説」と作家を通して、異文化である英語圏が現代にいたるまで抱えてきた社会諸問題を概観する。 |
| 学習（到達）目標 | 英語圏の中でも特に、英国の小説家の作品を中心にに取り上げ、読んでいく（必要に応じて英国以外の作品も紹介する）。英語圏社会が現在に至るまで抱えてきた男女両性の不平等や経済格差、異文化との対立などの諸問題に触れることで、より異文化への理解を深めるものとする。また、部分的に英語原典にも触れ、英語力も養成するものとする。 |

講義・演習計画

| 回 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | 初回オリエンテーション、授業の流れや成績評価について 英語圏の小説の始まりについて |
| 第2回 | 18~19 世紀英国の散文・小説 市民の目から見たパンデミックの騒乱 ダニエル・デフォー「ペスト」 感染症と創作の怪物 ブラム・ストーカー「ドラキュラ」 |
| 第3回 | 18世紀~19世紀初期の英国小説 女性と社会、階級 ジェイン・オースティン「高慢と偏見」① |
| 第4回 | ジェイン・オースティン「高慢と偏見」② |
| 第5回 | 19世紀の小説 女性の社会進出 ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」① |
| 第6回 | ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」② |
| 第7回 | ブロンテ関連作品：現代の視点からの古典の読み直し ジーン・リース「サルガッソーの広い海」 |
| 第8回 | ブロンテ姉妹：エミリー・ブロンテ「嵐が丘」① |
| 第9回 | ブロンテ姉妹：エミリー・ブロンテ「嵐が丘」② |
| 第10回 | 19世紀末の英国小説： 表現の自由と自主検閲 トマス・ハーディ「テス」① |

| | |
|------|--|
| 第11回 | トマス・ハーディ 「テス」 ② |
| 第12回 | 19～20世紀の英国小説 植民地と人種への視線 ジョセフ・コンラッド 「闇の奥」 ① |
| 第13回 | ジョセフ・コンラッド 「闇の奥」 ② |
| 第14回 | 20世紀の小説 ジェンダーへの視点 ヴァージニア・ウルフ 「オーランド」 ① |
| 第15回 | ヴァージニア・ウルフ 「オーランド」 ② まとめ |

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

| | |
|------|-----|
| 試験 | |
| レポート | 50% |
| その他 | 50% |

| | |
|---------------|--|
| 成績評価の方法（コメント） | 主な成績評価は、授業内で行う記述式の小課題、学期中間で行う中間レポートの提出と期末提出のレポート、最後のまとめの授業で行う最終まとめ授業内課題の総合評価で行います。 |
|---------------|--|

| | |
|--------------|--|
| 参考文献 | 石塚久郎 責任編集『イギリス文学入門』三修社 2014年 諏訪部浩一責任編集『アメリカ文学入門』三修社 2013年 |
| 事前および事後学習の指示 | ある程度小説の内容は授業内で概説するが、授業で扱う物語の概要を事前に簡単に把握しておくことが望ましい |
| 学習時間 | 事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間 |

| | |
|-------------|---------------|
| 講義コード | 1P41135002 |
| 講義名称 | 心理学<春> |
| 科目英文名 | Psychology |
| 開講責任部署 | |
| 代表ナンバリングコード | 000GE115 |
| 単位数 | 2.0 |
| 時間割 | 春学期: 金曜日 2 時限 |
| 講義開講時期 | 春学期 |

担当教員

| |
|--------|
| 氏名 |
| 重信 あゆみ |

| | | | |
|------|----|------------|---------|
| 授業形態 | 講義 | アクティブラーニング | グループワーク |
|------|----|------------|---------|

| | | | |
|---------------|------------------------------|------------|--------------------------------|
| アクティブラーニングの詳細 | ※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 | | |
| | コメントシート | 小レポート/小テスト | 協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク) |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | 「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、 ①自分を振り返ることができるようになる。 ②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。 |
| 授業概要 | 目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とのかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと心理学の概要 2. パーソナリティを見る 3. 心のなりたち 4. 無意識のはたらき 5. 自己をみつめる 6. 自己をつかむ 7. 私の子ども時代・小テスト 8. 対人関係を振り返る 9. 対人態度を知る 10. 人とのかかわり方 11. 私の友人関係 12. 社会とのかかわりと帰属意識・小テスト 13. 想像力と創造力 14. 職業選択 15. 自分の将来のイメージ・小テスト |
| 教科書 | 川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからを生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版, 2008年 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 授業の取り組み姿勢を重視する。毎かの課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は0点とする。 授業外学習40%・授業への参加度(振り返りレポート)35%・小テスト25% |
| 既修条件 | なし |